

働かせ放題

「やらないという選択肢はなかった」「意見を言える関係ではなかった」。アメリカンフットボールの定期戦で、関西学院大の選手を悪質なタックルで負傷させた日大選手の言葉だ▼たとえ前監督の指示であっても、到底許される行為ではない。だが、勇気を振り絞り会見に臨む態度は心から謝罪しているように見えた。言葉通りなら、前監督の責任は重い▼こうした特殊な上下関係は、何もスポーツの世界に限らない。程度の差こそあれ、身近な職場の中でも時折見られるのではないか▼働き方改革関連法案には、一部専門職を労働時間規制から外す高度プロフェッショナル制度が盛り込まれた。高収入の専門職が好きな時間に好きな方法で働けるよう労働時間規制から外し、成果に応じ賃金を払う制度だ▼年104日の休日確保すれば、1日24時間労働も合法となる。本人の同意が条件で、一度適用されても後に撤回はできる。ただ、職場の「空気」や上司の意向に反してまで、適用を拒否したり撤回を言い出せる人がどれだけいるだろう▼あなたの職場に、日大前監督のように理不尽な指示を出す上司はいないか。それに反論できる自由な雰囲気があるか。仕事の量や進め方を働く人が自主的に決められる詳細な仕組みを伴わない限り、「働かせ放題」法案と言われても仕方あるまい。会社がいくら謝罪しても、過労死が起きてからでは遅い。